建長まつり報告

管長様も腕を振るわれ

5000食のけんちん汁

本尊様の前でフラ

ミス鎌倉にも来てもらい

2年連続全国大会グランプリ
文部科学大臣賞にも輝いた高校生の演奏

栖雲寺と直接の関係はありませんが、私が勤める鎌倉の大本山建長寺で11月25日（日）に、けんちん汁5000食をふるまう＜建長まつり＞を開催しました。その実行委員会ではリーダーを勤めましたので、少しご報告させてください。

初開催となるお祭りですので、１年がかりで企画と運営をしてまいりました。山形市「日本一の芋煮会」から直径2.3ｍの大鍋をレンタル。けんちん汁を５千人にふるまうことをメイン企画とし、フラダンスの他、様々なイベントで盛り上げました。多くの方の協力を得て、成功裏に終えることができました。

＜お知らせ＞

・栖雲寺のホームページをプチリニューアル
　しばらく放置状態だったので、一部修正し情報更新。
　http://www.tenmokusan.or.jp または『栖雲寺』で検索

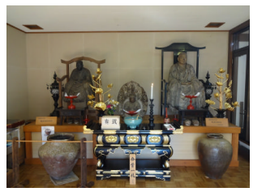
・大本山建長寺のホームページを全面リニューアル
　今後も修正しながら、また外国語ページ対応も進めながら改良を重ねていくようです。
　http://www.kenchoji.com または『建長寺』で検索

・インスタはじめました
　住職日誌としてのブログ（『住職日単』で検索）は毎日書いておりますが、
　栖雲寺の魅力を伝えるべく、天目山に限定した写真のみを投稿しております。

平成３１年の主な予定

天目山茶会

3月18日～24日	春季彼岸
4月21日	摩利支天大祭
6月2日	天目山茶会
7月7日	石庭草刈り、境内清掃
7月27日	開山忌（業海本浄禅師の命日）
9月20日～26日	秋季彼岸
10月6日	山門大施餓鬼会
11月8日～10日	宝物風入れ展・囲炉裏カフェ
11月9日	蕎麦奉納・大般若祈祷会
12月31日	除夜の鐘


宝物風入れ展

栖雲寺たより

天　目

第２８号

発行日

平成３１年１月１日

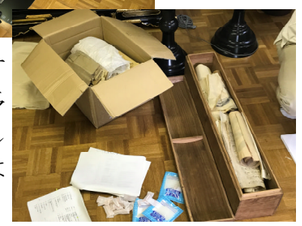
謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願いいたします

今上天皇の御退位や新元号の公表、全国民が注目し楽しみな１年が始まりました。良き年になりますように心からお祈り申し上げます。

平成３０年　秋冬の報告

古文書の調査



織田信長との戦火に焼かれ、残念ながら創建当時の様子を知り得る古文書はありません。それでも江戸時代以降の物はしっかり残っております。その多くは既に読まれておりますが、まだまだ手つかずで箱に入ったまま解読されていない資料も多数あります。9月20日に駒澤大学の先生、学生達が調査に来ました。資料整理や1点1点の写真撮影など、とても１日で終わる量ではなく、今後時間をかけて古文書調査をしていただく予定です。

紅葉の名所　天目山

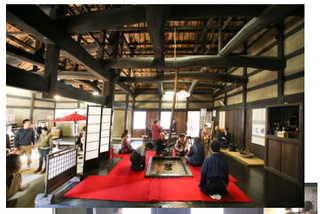
昨年も紅葉がきれいで、至福の錦秋にため息が出る美しさでした。

NHKやUTYテレビ山梨などが紅葉の取材に来ましたし、雑誌じゃらんの紅葉特集にも掲載されました。問い合わせも多く、大勢の方に紅葉狩りを楽しんでいただけたと思います。

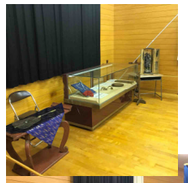
臨済宗建長寺派　天目山 栖雲寺　　住職　青柳真元
〒409-1201　山梨県甲州市大和町木賊122　TEL　0553-48-2797
http://www.tenmokusan.or.jp [栖雲寺]で検索　ブログ毎日更新

宝物風入れ展

おかげ様で10年
ここまでの行事になりました



囲炉裏カフェ
火鉢の椅子席やテーブル席、個室も用意



展示会場
毎年少しずつ展示の内容を変えながら

10年の節目でもあり、1日増やして３日間開催としました。ＮＨＫに自ら電話。簡単に来てくれるものではありませんし、断られる年の方が多いですが、今年はアピールが実り甲府放送局が開催初日に取材に来てくれました。金曜日は雨で少ない来場者。しかしその夕方と晩の2回も放送をしてくれたこと、そして事前の宣伝や口コミなどの効果もあって土曜日に300人、日曜日に200人、過去最高だった前年をさらに大きく上回る来場者でした。

最低入場者数30人を記録した数年前には、正直宝物展を止めようかと悩んだこともありましたが「継続は力なり」多くの方々に支えられ協力をいただきながら続けてくることができました。

カフェでのお点前

大般若祈祷
摩利支天様に蕎麦奉納
参拝者の福寿増長祈願

御祈祷に出頭いただいた和尚様、栖雲寺檀信徒、甲州市文化財課・観光商工課の職員、県立博物館の職員、甲州市ボランティアガイド、甲冑コレクター、講談師、茶席担当の先生方とその社中、江戸ソバリエ神奈川の会、寒いお寺に泊まり早朝から手伝ってくれた知人達、私の両親と家族、みんなのおかげです。そして何よりも御来場いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

住職手作りの
精進菓子
芋ようかん、蕎麦ようかん、蒟蒻や生麩の味噌田楽、リンゴチップなど毎年工夫をしております

展示物は大切な宝物、それを虫干しするのが風入れ展の本来の目的だったはず。しかし10年続けてきた今思うのは、これら人の縁こそが一番の宝物で、その人々が天目山の風を感じていただけることが一番の風入れ展なんだなあということ。みんなで作り上げてきた宝物風入れ展です。この宝物をこれからも大切にしていきたいと思います。

蕎麦ふるまい
庫裏の土間では蕎麦打ち
限定300食は全て完食

大勢の人が来てくれたことはうれしかった反面、こちらの対応が追いつかず、入場できずにお帰りになった方もいたと報告を受けました。お詫び申し上げますとともに、よりよい行事にしていくために一層精進してまいりますのでどうぞ末永くよろしくお願いいたします。

スタンプラリー
JRの駅からハイキングに合わせて天目山での蕎麦四軒食べ歩きなども企画されました

2019年は11月8日、9日、10日

の3日間。本年同様、囲炉裏カフェ・大般若祈祷・蕎麦奉納・ふるまいと合わせて開催予定です。是非ご来山ください。

甲冑展示と講談
講談「天目山勝頼公記」と内容に合わせた絵画の展示
本物の甲冑に興奮

干支にまつわるエトセトラ

住職
青柳　真元

２人の息子もやっと覚えました。ね、うし、とら、う・・・・
鼠が牛から飛び降りて１番になった順番のお話しは有名です。誰が語ったかどこの言い伝えか、諸説ある中で最も心がほっこりした順番決めのお話しを私好みにつなぎ合わせ、少しアレンジしました。お寺のたよりですのでお釈迦様バージョンでお届けいたします。

むかしむかし、お釈迦様は動物たちに言いました。
「私の所へ新年の挨拶に来た順で先着１２の動物に、今後１年ずつその年を守ってもらうことにする。ではよーいドン。」

牛は自分の足が遅いのを分かっていて誰よりも早く出発しました。１番にお釈迦様のいる祇園精舎に着いたのでウッシッシと高笑いで門をくぐり挨拶をしようとしたら、頭の上にいた鼠がチューと飛び出して門をくぐってしまい１番は鼠、２番は牛になってしまいました。{鼠頭いい―}

次に兎がやってきました。しかし門をくぐる直前、虎がガオーと走ってきたのでビビッて足がすくんだ瞬間に虎が追い越して３番、兎が４番に。それにしても結果は４番でしたが兎が牛に次ぐ２番手とこんなに早く到着したのは、みんが休憩している間もさぼることなくピョンピョンと飛び続けたからです。{亀との競争の時はなぜ余裕をかまして居眠りなどしてしまったのでしょうか？}

龍と蛇は同時に着きましたが「どうぞどうぞ」と譲り合った末に、龍が「ではお先に」と５番、やさしい蛇は譲った結果６番に。蛇は大成すると龍になれるとの伝説を信じており、龍を尊敬していたので、どうしても譲りたかったのです。{いい話だあ}

馬と羊は仲良しで家も近所。一緒に出発し仲良く歩いて来て、なんとなく無難に真ん中あたりでゴールして７番と８番。{特筆するエピソードがない理由を作者の中だるみとか言ってはいけません}

猿と犬は早く出発していたので、一時は牛とトップ争いをしたものの、犬猿の仲で喧嘩ばかりしていたおかげで次々と抜かれ、到着が遅れてしまいました。このままではどちらも１２番以内に入れないと心配したやさしい鳥が間に入り、その仲を「とりもって」猿が９番、鳥が１０番、犬はワンワンで１１番。{ついに英語まで登場}

そして、なんと猪こそが実はぶっちぎりで１番に到着したのですが、「猪突猛進」お釈迦様のいる祇園精舎の門を見逃し、猛スピードで通過してはるか彼方まで行ってしまいました。そこで勢至菩薩に制止させられ、馬頭観音に罵倒され、慌てて折り返しましたがみんながゴールした後だったので結局ビリの１２番。はいこれで閉門、十二支は決定です。{牛以外にもこんなにトップ争いをした動物がいたなんて・・・}

しかしその後も次々と動物はやってきます。蛙は小さい体で一生懸命跳ねて来たけど惜しくも１３番。すでに門は閉まっており、残念だけどあきらめてカエルことにした。その次に猫が到着。鼠は天敵の猫に挨拶の日を偽って伝えたために猫は一日間違っており、自分が優勝だと思い込んでの到着だったが門前払い。さらにイタチも到着。「なんとか門を開けてもらえませんか？」もちろん無理です。そんなイタチをかわいそうに思ったお釈迦様は、毎月１日を『つイタチ』と読むことにして納得させた。鼠に騙された猫もかわいそうだと、時間の単位に『秒（猫びょう）』と付けることで納得させた。猫もイタチも喜んで帰っていった・・・

ここまで来るとただのダジャレというか落語のネタのようになっておりますが、こうやって干支の話しは語り継がれてきたのです。

猪突猛進がんばりつつも、肝心なところで門を見落とさないよう一年を送りたいものです。摩利支天の眷属（使い）でもある猪。皆様に亥年の守護神「栖雲寺摩利支天」の御利益がありますように。